

2027年2月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年9月30日

上場会社名 株式会社ピクルスホールディングス 上場取引所 東
コード番号 2935 URL https://www.pickles-hd.co.jp
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 影山 直司
問合せ先責任者 （役職名） 上席執行役員経営企画部長兼 広報・IR室長 （氏名） 利根川 健一 TEL 04-2931-0777
半期報告書提出予定日 2026年10月15日 配当支払開始予定日 2026年11月5日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2027年2月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年3月1日～2026年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年2月期中間期	21,516	△3.6	1,225	△21.9	1,271	△21.6	847	△23.2
2026年2月期中間期	22,321	2.9	1,569	40.5	1,623	38.5	1,102	38.1

（注）包括利益 2027年2月期中間期 837百万円（△25.2％） 2026年2月期中間期 1,120百万円（38.9％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年2月期中間期	67.44	65.38
2026年2月期中間期	88.33	85.53

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年2月期中間期	30,318	20,740	67.2
2026年2月期	30,204	20,053	65.1

（参考）自己資本 2027年2月期中間期 20,378百万円 2026年2月期 19,650百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	15.00	—	14.00	29.00
2027年2月期	—	15.00			
2027年2月期（予想）			—	17.00	32.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2027年2月期の連結業績予想（2026年3月1日～2027年2月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000	0.2	1,820	△12.7	1,860	△13.4	1,231	△11.0	98.33

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料７ページ「２．中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年２月期中間期	12,858,430株	2026年２月期	12,858,430株
2027年２月期中間期	262,600株	2026年２月期	330,200株
2027年２月期中間期	12,563,132株	2026年２月期中間期	12,483,621株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第２四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料２ページ「１．経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 中間連結貸借対照表	3
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、断続的な物価上昇や物流費・人件費の高騰に加え、中東情勢の緊迫化によるエネルギー価格の高騰やナフサ不足に伴う包装資材等の価格上昇など、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、インバウンド需要の拡大により外食需要は堅調に推移しているものの、食料品価格やエネルギー価格の高騰などを背景に消費者の節約志向が強まり、内食需要は厳しい事業環境にあります。漬物等の「ご飯のお供」の関連製品についても、消費者の購買行動の変化や米価高騰の影響を受け、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、北海道から九州まで全国に展開している製造・販売のネットワークを活用し、新規得意先や新しい販路の開拓及び既存得意先の拡販に取り組みました。

販売面では、量販店向けに「ご飯がススム3種のキムチ盛合せ」や惣菜需要に対応した重点商品等の拡販を進めるとともに、コンビニエンスストア向けに個食需要に対応した食べきりサイズのキムチなど、積極的な商品提案を行いました。また、注力領域に掲げる「業務用商品の拡張」として、冷凍商品を含む業務用のキムチや惣菜製品を開発し、得意先へ積極的な提案を行いました。また、「ご飯がススム柿ピーキムチ味」等のコラボ商品発売で、ご飯がススムキムチシリーズの認知度向上を図ったほか、公式ファンコミュニティサイト「ピックルス食堂」において消費者との交流を通じ、顧客ロイヤリティの向上に努めました。

製品開発面では、浅漬製品として、ぬか風味の胡瓜の浅漬の「切れてるぬか胡瓜」や、にんにくと唐辛子のピリ辛な味わいに煎りごまの香ばしさがアクセントの「やみつきになるピリ辛ごま胡瓜」、春夏の期間限定商品として「ご飯がススムうま辛胡瓜」を発売しました。また、惣菜製品として「オクラとモロヘイヤのおひたし」のリニューアルを実施し発売しております。

新規事業では、外食事業及び小売事業を行う「OH!!!～発酵、健康、食の魔法!!!～」(所在地：埼玉県飯能市)において、2026年8月にSDG s とキムチ作りを学ぶワークショップの開催や、2026年4月に「飯能ペカリーPOCO-POCO」が、エキュート大宮で開催された「エキナカパンめぐり」などの催事に出店するなど、集客力向上のための取り組みを行いました。

サステナビリティへの取り組みとして、当社及び株式会社ピックルスコーポレーションが、健康経営優良法人認定制度により、優良な健康経営を実践している企業として「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定されました。当社グループの本認定は昨年に続き2年連続となります。今後も、健康経営に関する取り組みを継続してまいります。

株式会社ピックルスコーポレーションが2027年2月に会社設立50周年を迎えるにあたり、記念ロゴマークを制定し、各種取り組みを展開してまいります。

売上高は、「ご飯がススムキムチ」シリーズについては堅調に推移したものの、消費者の節約志向の影響や、コンビニエンスストア向けの売上が減少したこと、中長期戦略の一つとして掲げている収益性向上施策として、引き続きアイテム数の絞り込みを行ったことなどにより減収となりました。

利益については、売上の減少や包装資材等の製造コストの増加に加え、夏場の猛暑や少雨による白菜の歩留まりの低下や、初夏の雨天や低温による胡瓜の生育遅れなどの天候不順により、原料野菜の価格が高騰した影響を受け、減益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は21,516百万円(前年中間期比3.6%減)、営業利益は1,225百万円(同21.9%減)、経常利益は1,271百万円(同21.6%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は847百万円(同23.2%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて113百万円増加し、30,318百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が157百万円、機械装置及び運搬具が254百万円それぞれ増加したことと、現金及び預金が255百万円減少したことによるものであります。

負債については、前連結会計年度末に比べて572百万円減少し、9,578百万円となりました。これは主に短期借入金が200百万円、1年内返済予定の長期借入金が700百万円それぞれ増加したことと、買掛金が398百万円、長期借入金769百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べて686百万円増加し、20,740百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益等により利益剰余金が671百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年2月期の業績予想につきましては、2026年4月14日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当中間連結会計期間 (2026年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,214	5,959
受取手形及び売掛金	4,550	4,708
商品及び製品	385	420
仕掛品	59	74
原材料及び貯蔵品	281	332
その他	86	101
流動資産合計	11,579	11,596
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,649	7,512
機械装置及び運搬具(純額)	2,709	2,964
土地	6,527	6,527
リース資産(純額)	75	67
建設仮勘定	6	—
その他(純額)	94	94
有形固定資産合計	17,063	17,166
無形固定資産		
のれん	8	—
その他	68	69
無形固定資産合計	76	69
投資その他の資産		
投資有価証券	872	882
繰延税金資産	548	535
その他	65	68
投資その他の資産合計	1,486	1,486
固定資産合計	18,625	18,722
資産合計	30,204	30,318

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当中間連結会計期間 (2026年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,913	2,515
短期借入金	400	600
1年内返済予定の長期借入金	439	1,139
リース債務	13	13
未払法人税等	604	460
賞与引当金	154	151
役員賞与引当金	14	—
その他	2,069	1,934
流動負債合計	6,608	6,814
固定負債		
長期借入金	2,312	1,542
リース債務	54	47
繰延税金負債	19	5
退職給付に係る負債	857	869
その他	299	298
固定負債合計	3,542	2,763
負債合計	10,150	9,578
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,785	2,770
利益剰余金	16,849	17,521
自己株式	△391	△311
株主資本合計	19,343	20,079
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	270	265
退職給付に係る調整累計額	37	33
その他の包括利益累計額合計	307	299
新株予約権	386	345
非支配株主持分	16	15
純資産合計	20,053	20,740
負債純資産合計	30,204	30,318

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年8月31日)
売上高	22,321	21,516
売上原価	17,284	16,765
売上総利益	5,037	4,750
販売費及び一般管理費	3,467	3,525
営業利益	1,569	1,225
営業外収益		
受取利息	2	4
受取配当金	6	6
持分法による投資利益	22	13
受取賃貸料	11	11
事業分量配当金	8	10
その他	19	15
営業外収益合計	71	62
営業外費用		
支払利息	12	9
賃貸費用	5	5
営業外費用合計	17	15
経常利益	1,623	1,271
特別利益		
補助金収入	0	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産処分損	1	3
特別損失合計	1	3
税金等調整前中間純利益	1,622	1,271
法人税等	520	425
中間純利益	1,102	846
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する中間純利益	1,102	847

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年8月31日)
中間純利益	1,102	846
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	△4
退職給付に係る調整額	△1	△4
その他の包括利益合計	18	△8
中間包括利益	1,120	837
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,120	838
非支配株主に係る中間包括利益	△0	△0

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。